

「専攻科福祉専攻の閉科」に寄せて

特定非営利活動法人てのひら
代表 大石政和

私は平成14(2000)年3月、専攻科福祉専攻が開設される年に豊橋創造大学短期大学部幼児教育科を卒業いたしました。幼教第一期目の社会人入学した男性学生で「1年間しかなかった幻の大林ゼミ」に入り、卒業時に専攻科が開設されると知り、進学か就職か悩んだ記憶がございます。

現在は、2010年に福祉仲間と視覚障害者を対象に「特定非営利活動法人てのひら」を立ち上げ、就労継続支援B型事業(視覚障害者就労継続支援施設 陸)、豊橋市視覚障害者歩行訓練事業に携わっております。

卒業して10年後、法人設立を大林先生に報告に行くと、視覚障害に特化した支援事業に着目したことに理解を示してくださり大変喜んでくださいました。それ以降、専攻科福祉専攻の学生の皆様とご利用者様が毎年関わるようになり、今では「今年は、そろそろ学生さんが来る時期じゃない?」とご利用者様から言われるくらい定着した楽しみの一つとなっていました。コロナの影響で社会全体の活動制約をもたらしていますが、視覚に障害のある方にとっても、不安ある生活が続いています。

そのような中で専攻科福祉専攻も今年度で閉科との事で大変残念に思います。

大学にお邪魔しご利用者自身からの生活の実態、視覚に関する疾病、手引き歩行体験を行い帰路に於いて利用者(視覚障害者)自身が良い時間を過ごすことができたと話され、ご利用者様による「社会的啓発活動」になって満足されていたことを今でも大変嬉しく思っています。また、年に一回行う日帰りの旅行にも参加してもらいました。その時のお天気やバスの中での思い出を大変楽しかったのか、今でも利用者の皆様の話に出ることがあります。

「サツマイモの苗付け」「災訓練時に電機ポットでのパッククッキング調理」等、思い出すことは沢山あります。一つひとつが貴重な機会であったと今なお改めて感じております。閉科は、致し方ないところですが、常時人材不足の福祉業界にとって貴重であった若い専門的知識をもった人材育成を行う場所が無くなってしまふことは本当に残念でなりません。

今後は専攻科福祉専攻がなくなっても、私は豊橋創造大学短期大学部の卒業生として福祉の現場にいるとコミュニティを築く機会を大学にも求めていきたいと思えます。

2022年1月

幼児教育・保育科大林博美ゼミ卒業生 大石政和